

【令和6年度】防災を含む安全教育のキャリアラム構想図（教科横断的な学び）

防災教育の重点

「自助・共助・公助」のために、どのような取り組みが行われているのかについて理解する。
 そして、自分（達）は、命や生活を守るために何ができるのか（何をすべきなのか）を考え、行動しようとする態度を育成する。

「自助」、「共助」、「公助」の内容や仕組みについて理解する。
 特に、自治体（市役所の危機管理課、消防署、警察署、防災士会等）と連携を図ることで、実際の聞き取りや資料をもとに具体的に調べ、理解したり考えたりすることとを大事にする。

防災を含む安全教育学習後に児童・生徒に期待する姿（認識）

日本には数多くの断層があり、これから南海トラフ地震や直下型地震などが起きる可能性があるし、ほかにも様々な災害が起きる可能性がある。その時には、まず自分の命を守る行動や、互いに助け合う行動を取るようにしたい。そして、何よりも日頃からの防災グッズの準備や非常時の行動を考える備えを大事にしておきたい。

<特別活動>

【高校・特活】
 地域社会の安全への貢献を含めた主体的な行動（交通安全、災害安全）

【中・特別活動】
 地域社会の安全への貢献を含めた主体的な行動（交通安全）（災害安全）

【小・特別活動】
 地域の安全対策の理解を含めた主体的な行動（生活安全）（交通安全）

【保育園・幼稚園】
 地域の安全対策と合わせた教育や防災行動（生活安全、交通安全）

探究的な活動の時間 総合的な活動の時間

ジュニアパラメディックの縦割り学年のつながりによる取り組み

【中学校の取り組み】
 古川中・1年
 「防災マイプロ」
 神岡中・文化部
 「命を守る訓練」
 山之村中
 「命を守る訓練」
 防災に関する課題解決

【小学校の取り組み】
 古川小・5年
 「総合：防災について」
 神岡小・4年
 「総合：防災について」
 小学校
 「命を守る訓練」
 「交通安全教室」
 ・まず自らの命を守ることを最優先に！

<各教科>

【(小)中】国語や外国語（英語）
 「自分や家族の命を守ること」、「地域社会の安全へ貢献する行動」についての新聞やプレゼンづくり、討論会などを通して主体的に考え、表現する

軸となる授業づくり①②

【社会（中学校地理）】
 ②過去の災害の経緯や教訓を調べ、人々が防災や減災のために様々な取り組みをしていること、人々の命や生活を守るためにさらに何をすべきかを考えることができる。

【国語（小学校）】
 ①災害時の行動や、備えについて調べ、備え（討論する）ことを通して、防災や減災のためにどんな備えや行動をするべきかについて、考えを広げ深めることができる。

【中3・公民】
 【中2・地理】
 自然災害と防災・減災への取組（生活安全）

【小6・社会】
 震災復興の願いを実現する政治（生活安全）

【小5・社会】
 自然災害を防ぐ（生活安全）

【小4・社会】
 自然災害からくらしを守る（生活安全）

【中2・理科】
 天気と気象の変化
 気象現象がもたらすめくみと災害（生活安全）

【中1・理科】
 大地の変化
 火山と地震に備えるために（生活安全）

【小5・理科】
 台風と天候の変化
 流れる水のはたらきと災害（生活安全）

【中・美術】
 防災に係るピクトグラムづくり（生活安全）

【中・保健体育】
 （交通安全等の）危険予測と回避傷害の防止（生活安全）

【小・保健体育】
 けがの防止（自然災害によるけがの防止）（生活安全）

【中・家庭科】
 私たちの住生活（災害への対策）
 ・【小・家庭科】
 あなたは家庭や地域の宝物（生活安全）

特別な教科・道徳

【中2（ ）】
 未来に響け“復興輪太鼓”

【中1（ ）】
 町内会デビュー
 ボランティア活動

【小6（ ）】
 命と向き合う人生

【小6（ ）】
 生命のメッセージ

【小6（ ）】
 命のおにぎり

【小5（ ）】
 明日へ向かって

【小5（ ）】
 命をかけて命を守る
 ～山岳警備隊～

【小4（ ）】
 レスキュー隊

防災を含む安全教育学習前の児童・生徒の姿（認識）

日本では地震や台風など、いろいろな災害が起きて怖い。東日本大震災や能登半島地震などについて、新聞やニュースなどで様々なことを聞くけれど、実際に身近なところで災害が起きたら、何をすればいいのかわからない。知識（情報）ではいろいろな知ってはいないが、実際には準備が十分にはできていないので心配だ。

第 6 学年 国語科学習指導案

1. 単元名 目的や条件に応じて話し合おう「みんなで楽しく過ごすために」

2. 単元の目標

◎思考に関わる語句の量を増やし、話の中で使うことができる。(知(1)オ)

◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

(思A(1)オ)

3. 課題解決的に考える単元指導計画

時間	思考の流れ	学習活動	課題解決ポイント	国語科ポイント
1	課題設定能力 計画力	・みんなが納得できる結論、よりよい結論を出せる話し合いとは？ ・地震の頻度、家屋の倒壊、それに基づく避難所生活について課題意識をもつ ・議題を確かめ、目的や条件を考える。 ・学習計画をたてる	導入でいかに自分事として課題意識をもてるか ・数字からの連想 ・数字からの切実感 ・自分の地域の具体を出す	R1.6.18(28、1580) R3.2.13(69、19758) R4.3.16(217、52162) R6.1.1(8789、83154) H23.3.11(121996、748461) 30年以内の発生確率東海地震：87% 2011 文科省地震調査
2	情報収集力 情報分析力	・議題を確かめ、<u>目的と条件を明確</u>にする ・目的と条件に合わせて、自分の考えを整理する。	資料や情報の取捨選択 ※ある程度、限定しないと広がりすぎて収集がつかない	<話し合いの見通し> ・議題、目的、条件 <考えの整理> ・主張、理由、根拠
3	計画力	・話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。 ・話し合いのポイントをつかむ。		◎目的、条件に沿っているか
4	表現力・思考力・判断力	・進行計画に沿って、ポイントを意識して話し合い、仮の結論を出す。		<広げる話し合い> ・自分の立場、主張 ・理由や根拠 ・質問・疑問
		(実際に試す) (話を聞く)	子どもの新たな気づき・本当にこれでよいのか多面的に見たり考えを再構築したりする思考のきっかけ作り ・実際の場合へ行ってのイメージ ・動画や写真による問題提起 ・専門家のアドバイス	<まとめる話し合い> ・共通点、相違点 ・問題点→改善点 ・利点→とりいれる ・組み合わせ、まとめ
5	表現力・思考力・判断力	・試した結果を基に、再び話し合い、最終的な結論を出す。		
6	振り返り改善する力	・話し合ったことを共有して、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。	みんなが納得できる結論、よりよい結論を出せる話し合いをどんな場で生かせるか →日常や総合につなげる	・(知)どんな言葉を使った？ ・(思)広げるまとめるために、どんなことを気を付けた？ ・(主)話し合いで大切なことは？

防災教育を軸とした教科横断的な学習（国語科）指導案

1 単元名 6年生国語 目的や条件に応じて話し合おう

「みんなで楽しく過ごすために」

日時：令和6年 月 日 第 校時

学級：6年 組（6年 組教室）

授業者：

2 本時のねらい

議題、目的を確認し条件を決めて、話し合いの見通しをもち、主張・理由・根拠をはっきりさせた自分の考えを明確にすることができる。

3 本時の展開（ 2／6 ）

過程	学 習 活 動	指導・援助												
導入	1. 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 ○前時の資料（写真等）をもとに決めた議題と目的を確認する。 議題 避難所生活で、小6の自分たちにもできることは何か。 (大人は大人のやるべきことをやっている。それぞれの仕事もある。) 目的 避難所でも地域の人が少しでもストレスなく過ごせるよう、自分たちが地域の人の役に立つ。 ○条件となることは何かを明確にする。 条件 ・自分の地域の避難所（○○小学校） ・多くのいろいろな人が避難生活をしている。(自分の地区では…) ・お金がかからないこと・新しいものを使わないこと。(自分も被災している。) ・いつなのか（○月頃） ◇（参考）避難所での困ったことランキング 2. 自分の考えを話す際の整理の仕方を確認する。 ・主張：目的と条件に合う意見、議題に対する自分の立場。 ・理由：なぜその主張がよいと考えるか。 ・根拠：主張を支える事実や体験など。	・単元の目標と学習計画の中の 本時の位置づけを確認する。 ・前時に決めた議題と目的を 明確にする。その際、資料で使 った写真等を提示することで、 より具体的な避難所のイメー ジをもてるようにしておく。 ・条件を決め出す際は、実際に 明日にでも動けることをイメ ージするために、自分の避難所 のイメージを明確にもたせる。 ⇒・避難所ごとのグループ分け ・地域にどんな人がいるのか （高齢者・障がい者・幼児等） ・能登のことと関連させて設 定を1月する（冬期の対応）な ど ・理由や根拠にもつながるよ うに、避難所の困ったことラン キング、避難所の課題等を提示 する。その際、自分たちの力で は何ともできないことが多いこ とも確認する。												
理由と根拠をはっきりさせて、条件に合う自分の主張を考えよう。														
展開	3. 自分の考えを整理する。 <table><tr><td>主張</td><td>みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。</td></tr><tr><td>理由</td><td>多くの人が共同で使っているので、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。</td></tr><tr><td>根拠</td><td>普段の学校生活もみんなで使うところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。 環境がよくなって、感染症が流行ったということを聞いたことがあり、きれいな環境が大事だと思う。</td></tr></table> <table><tr><td>主張</td><td>救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。</td></tr><tr><td>理由</td><td>救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。</td></tr><tr><td>根拠</td><td>テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。</td></tr></table>	主張	みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。	理由	多くの人が共同で使っているので、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。	根拠	普段の学校生活もみんなで使うところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。 環境がよくなって、感染症が流行ったということを聞いたことがあり、きれいな環境が大事だと思う。	主張	救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。	理由	救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。	根拠	テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。	・理由と根拠が混同する人が 多いので、言葉の定義をしっか り押さえる。 ・考えをもつ際のヒントとな るような防災に関する本や、ネ ットの検索も可能な環境にし ておく。 ・早く考えをまとめられた人 にも、根拠に説得力があるか や、次時の話し合いでの「質問 や疑問」を想定して、考えを深 められるような、投げかけをす る。 ・考える視点は「目的や条件」 であることにいつでも立ち戻 り、話し合いに入った際の土台 とする。
主張	みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。													
理由	多くの人が共同で使っているので、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。													
根拠	普段の学校生活もみんなで使うところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。 環境がよくなって、感染症が流行ったということを聞いたことがあり、きれいな環境が大事だと思う。													
主張	救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。													
理由	救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。													
根拠	テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。													
終末	4. 根拠となるものは何かを確認する。（事実や体験） 5. より説得力が出る根拠や、質問されそうなところを考えて、さらに情報を集め、考えを深める。 6. 自分の考えを、ロイロノートで提出する。	理由と根拠をはっきりさせ て、条件に合う自分の主張を 考えている。 思A（1）オ （考えの記述・発言）												

〈防災教育の視点〉

※東日本大震災など、過去の災害の経緯や出来事を調べ、「自助・共助・公助」の視点で様々な取り組みに気づき、人々の命や生活を守ることについて考えることができる。

〈単元のねらい〉

○東北地方の自然・産業・伝統文化といった地域的特色について関心をもち、課題追究しようとする態度を養うことができる。

○地図や統計資料から視点を明確にして課題に応じて読み取り、課題解決に向けて活用することができる。

○東北地方における伝統文化と生活のかかわりを通して、生活に根付いている伝統文化について多面的・多角的に考察し理解するとともに、東北地方の人々が地理的・自然環境的に厳しい生活を克服するために伝統文化を大切にしていることに気づくことができる。

単元学習前の生徒の姿（認識）

東北地方は、冬寒さが厳しく雪が多く残っていて、古くからの生活が今も続いていることや、やませや大雪、地震などで災害の被害が多い印象がある。

【事実に関する認識を獲得する場】

1. 東北地方に関心をもち、関心をもつ場

- ①【関・意・態】東北地方のあらまし
- 東北地方の自然環境や産業、文化を捉えることを通して、東北地方には各地にさまざまな伝統文化が色濃く残されていることに気づき、人々の生活と伝統文化のかかわりについて興味をもつことができる。
- 東北地方は、どのような特色がある地域なのだろう。
- ・自然環境：険しい山地、厳しい冬、冷夏、やませ、災害の歴史
 - ・産業：日本有数の米どころ、産業別就業人口、交通網の発達
 - ・文化：食文化、伝統工芸、祭り
- 資料：「東北地方のくらし」

【地域的特色を捉える場】

2. 東北地方の特色について理解する場

- ②【知・理】東北地方の食文化や伝統工芸品とその変化
- 「きりたんぼ鍋」や「いぶりがっこ」といった伝統的な食文化や、秋田杉を利用した「大館曲げわっぱ」「秋田杉桶樽」について調べ、秋田杉を通して、気候や環境を産業に生かしながら厳しい冬を乗り越える工夫や、産業での工夫について理解することができる。
- 東北には、どのような伝統的な食文化や産業があるのだろうか。
- 資料：「東北地方の主な郷土料理」
「東北地方の主な伝統工芸（品）」
「秋田杉（の特色）」と「秋田杉桶樽」、「大館曲げわっぱ」

- ③【技能（資料活用）】東北地方の祭りや伝統行事とその変化
- 秋田市の「なまはげ」といった伝統的な行事について調べることを通して、長く厳しい冬の中で家族の絆を深めるとともに、地域社会で子どもを育てていくこととする人々の思いがわかる。
- 男鹿地区で伝統行事のなまはげが続けられているのはどうしてだろう。
- 資料：「なまはげの歴史」「伝統行事である「なまはげ」」
「男鹿地方の真山神社と真山伝承館について」
「世界遺産である伝統行事を守る取り組み」

単元学習後に期待する生徒の姿（認識）

はじめは東北地方についてよく知らなかったけど、地域の特色を生かした伝統文化が色濃く残っていることが分かった。また、伝統文化が生活の一部となっていて、厳しい冬の寒さや自然災害などの困難を乗り越えるために、東北の人たちは祭りに通じて1つになっている。生活の中で受け継がれていくものこそ伝統であり、だからこそ特に東日本大震災での教訓を受け継ぎ、後世に伝えていくことで自分や周りの人の命を大事にして生きていけるようにしたい。

【主体的に社会の形成に参画する力（の基礎）を育む場】

3. 東北地方に住む人々の生活や生き方に迫る場

- ④【思・判・表】伝統文化の継承と未来に向けた社会づくり
- 江戸時代から続く「竿灯まつり」について調べ、東北の祭りは困難な地理的条件と共に乗りこえてきた象徴であることに気づき、地域開発や戦争によって途絶えかけたにもかかわらず人々のつながりによって伝統文化が受け継がれてきたことを考えることができる。
- 「竿灯祭り」は、なぜ200年以上も続いているのだろうか？
- 資料：「東北地方の主な祭り」「竿灯祭りの歴史」「竿灯祭り」と地域」「竿灯会の歩みと藤田会長」「六魂祭とは」
- 東日本大震災で多くの祭りが自粛されるさなか、あえて開催した理由から、東北地方における祭りの意義を考える。

【防災教育の視点】で単元の中核となる授業

- ⑤【知・理】【思・判・表】災害から学び、今と未来を生きていく
- 東日本大震災などの過去に起きた災害の経緯や教訓を調べることを通して、防災や減災のための様々な「自助・共助・公助」の取り組みに気づき、これからの人々の命や生活を守ることについて考えることができる。

東北地方では、東日本大震災や過去の災害（の教訓）から何を学び、どのように生かそうとしているのだろうか？

資料：「東日本大震災について」「東北地方の災害の歴史（年表）」
「防災の石碑」「防災のための様々な取り組み」

※「指導案（本時の展開）」と資料は別紙参照

4. 東北地方の特色を一般化する場

- ⑥【思考・判断・表現】東北地方の特色
- 東北地方の特色や学んだことを、工夫してまとめてみよう。
- 資料：「これまでの学習資料」「学習ノート」

防災教育を軸とした教科横断的な学習（社会科）指導案 【令和7年度版】

1 単元名 2年生社会科（地理分野）東北地方 「過去の継承と未来に向けた社会づくり」

日 時：令和7年 月 日 第 校時
学 級： 2年 組（2年 組教室）
授業者：

2 本時のねらい

東日本大震災などの過去に起きた災害の経緯や取組を調べることを通して、人々が防災や減災のために様々な「自助・共助・公助」に取り組むとともに、過去の経験や教訓を生かそうとしていることに気づき、人々の命や生活を守るために自分たちは何をしていけばよいか考えることができる。

3 本時の展開（5/6）

段階	学 習 活 動	研究内容との関わり
見 通 す	1. 「東日本大震災後の石碑」を巡る過去の出来事や取組について知る。 ・1933年の地震の後に建てられた石碑は、後世の人のために作られている。 ・石碑の設置や住居の移築をして、被害の再発をしないように取り組んでいる。 東北地方では、東日本大震災や過去の災害の経験(教訓)をもとに、何を学び、どのように生かそうとしているのだろう。 2. 課題に対して予想をする。 ・言い伝えや記録を残し、防波堤や家を建てる場所を工夫している。 ・防災グッズや防災食を用意したり、避難訓練を大事にしたりしている。 3. 個人追究する。(一人で考える場) 4. 全体交流することで、自分と仲間の考えを比較して考える。	●学習課題の工夫について ・災害の後につくられた石碑や言い伝え等を具体的に提示することで、さらなる興味や関心を高める。 ◆資料①「自然災害伝承碑」 ◆資料②Eテレ「明日をまもるナビ(115)」(宮古市の石碑等)を視聴する
つ か む	【「自助や共助」の取り組み】 ・家具の転倒・落下防止の備え ・防災グッズ(非常用品)の備え ・危険箇所や避難場所の確認 ・災害時の行動についての話し合い ・地域の避難訓練への参加 ⇒災害への備えと、非常災害時の行動についての共通理解 【「公助」の取り組み】 ・災害の出来事や記録をもとにした自治体や消防、警察や自衛隊の取組 ・復興計画やハザードマップの作成 ・法令や条例、危機管理マニュアルの改正 ⇒災害に強い町づくりと、住民の防災意識を高める取り組み 過去の教訓を生かして「自助」・「共助」・「公助」に取り組むことで、人々の対話や協力を大事にしながら住民の命を守ろうとしている。	●「個別最適な学び」の工夫 ◆自然災害伝承碑(国土地理院データや自治体資料)や「津波てんでんこ」等の言い伝え、ハザードマップ等、各自が教科書や書籍、SNS等で調べる。 ●「協働的な学び」の工夫 ・各自が調べたことを交流し、共通点や相違点について考える。 ・「視点」を明らかにして、考えを広げ深める。
深 め る	5. 東日本大震災の教訓を伝えるのに、岩手県大槌町では、なぜ「石碑」ではなく耐久性の低い「木碑」を作ったのだろう？ 【自分たちで命を守り、生活や地域をつくっていく】 ・あえて朽ち果てていく「木碑」を設置することで、自分たちの手で4年に1度設置し直すことで言い伝えを確認し、過去の教訓を風化させないようにして住民の命を守り続けようとしているんだ。 ⇒自分たちも非常用品や危険箇所の確認など、日頃からの備えをしなければ。	●「深い学び」のための工夫 ・「発問」や「問い返し」により考えを深める ◆資料③Eテレ「明日をまもるナビ(115)」(岩手県大槌町の木碑の自然災害伝承碑について等)を視聴する
ま と め る	6. 学習を振り返り、考えをまとめる。 東北地方の取組のように、過去に起きた災害や取組について詳しく知り、教訓を忘れないように受け継いでいくことが、自分や周りの人の命を守ることにつながるんだ。しかし、想定外のことも起こりうるから、まずは自分が日頃からの備えを大事にして、情報を把握したり、人々で対話したりして判断・行動していくことが重要なんだ。	●「振り返りの場」の工夫 【評価規準】(思・判・表) 防災や減災のために、被災地でどのような取り組みが行われているかを調べ、自分たちが何をすべきかを考え、行動しようとすることができる。 【評価の方法】 ・ノートやタブレットの記録 ・発言や交流の様子